

令和 6 年度 兵庫県立丹波医療センター 活動報告

令和 6 年 7 月 3 日

○医療圏について

丹波医療圏（丹波市・丹波篠山市）

○街の特徴について

対象人口：約 9.6 万人（令和 6 年 6 月：丹波市 58,626 人，丹波篠山市 38,054 人）

丹波市は京都・大阪・神戸から車で約 1 時間 30 分とアクセスが良く，都会に近い田舎「とかいなか」です．豊かな自然と歴史的な文化が融合し，黒豆，栗，松茸などの丹波特産食材を使った美味しい料理が楽しめる飲食店が多数あります．織田氏の城下町としても知られ，歴史的な建造物や史跡が点在しております．

○兵庫県立丹波医療センターについて

・病床数：320 床（急性期 204 床，地域包括ケア 45 床，回復期リハ 45 床，緩和ケア 22 床，感染症 4 床）

・院内常勤医師数：62 名

・養成医派遣数

初期研修：2 年目 5 名，1 年目 4 名

前期派遣：内科・総合診療科 2 名，外科 2 名，産婦人科 3 名，整形外科 1 名

後期研修：内科 3 名

後期派遣：内科・総合診療科 1 名，小児科 1 名，整形外科 1 名

・養成医派遣診療科

内科，総合診療科，小児科，外科，産婦人科，整形外科

○養成医派遣各科診療の特徴

・内科：各診療科の垣根が低く相談しやすい環境であり，神戸大学等から最先端医療を行う応援医師も派遣されています．これにより，specialist に相談しながら内科全般的な診療を行うことができ，サブスペ能力を鍛えながらもそれだけではなく，様々な疾患・病態に対応できるマネジメント能力を培うことができます．緩和ケア病棟もあり，救急対応から緩和ケアまで幅広く診療できます．また，病院からミルネ診療所への派遣という形で，病院診療に加えて診療所外来や訪問診療に携わることができるのも魅力です．（ちなみに訪問診療に携わる医師の半数は県養成医師であり，地域の在宅医療を支えています．）

・小児科：丹波に根付いた医療を提供しており，小児救急を断りません．小児科の総合診療医としての役割を担っています．一般小児科と新生児どちらも対応しており，幅広い症候や疾患を経験できます．特に小児アレルギーに力を入れており，食物負荷試験や喘息コントロール，舌下免疫療法

などを行なっています。

・外科：定期、緊急問わず幅広く執刀医として手術に携わっています。また、近隣の診療所と地域連携パスなどを用いながら情報交換を行い、病診連携を重視しています。救急分野では丹波地域の外科系疾患に幅広く対応して地域の外科診療に貢献しています。

・産婦人科：妊娠管理や婦人科疾患など扱う範囲が多岐に渡り、外来以外にも手術や分娩など様々な手技を習得する場合があります。独り立ちが早く、分娩や手術執刀などやれることが増えるのを実感できてやりがいを感じます。分娩件数は減少傾向にはあるものの、丹波医療センターは上級医の先生が非常に指導に熱心なため、学ぶのに良い環境と考えています。

・整形外科：整形外科の立場からは地域の健康増進に寄与するために、変性疾患等に対する保存的治療、脆弱骨折を含む外傷に対する手術加療を行うと共に二次骨折の予防目的に骨粗鬆症治療介入にも力を入れています。

○地域医療活動・病院外活動等の特徴・実績

学会発表（各種学会での優秀演題賞等の受賞も多数）や臨床研究にも力を入れており、経験豊富な指導医の元でキャリアのプラスとなるような経験を積むこともできます。院内では NEJM, Lancet, Up to Date など契約されている医学誌を利用でき、常に日々の診療をブラッシュアップすることができます。地域医療活動として毎月1回地域住民への健康講話を行っています。内科、総合診療科に限らず、他科の養成医もそれぞれ得意なテーマで健康講話を行い、地域の健康増進に取り組んでいます。

○病院の推しをひとつ

当直翌日の午前中帰宅、時間外勉強会の自由参加制、病後児も含めた院内保育の利用が可能等、職場環境や時代背景に即した働き方改革も研究・実態調査に基づき実行され、働きやすい環境を整えようという病院の取り組みがあります。またグラム染色勉強会、介護職との意見交換会などの取り組みを行っており、養成医師が地域医療を実践するための土台作りができます。